



事業シート（概要説明書）

様式1号

① 事業名	国際交流事業
② 細事業名	国際交流協会支援事業

総合計画体系	章	03元気創造都市	節	08国際交流
担当部・課	生涯学習部 ふるさと文化課		事業開始年度	平成4年度
根拠法令				

③ 事業内容 (手段・手法など)	(1)国際交流の普及及び啓発に関する事業 (2)在住及び滞在する外国人との交流及び支援に関する事業 (3)国際交流を推進するボランティアの育成及び支援に関する事業 (4)国際交流に関する情報収集及び会報等国際交流にかかる広報に関する事業 (5)友好姉妹都市をはじめとする諸外国との交流の推進に関する事業 (6)他の国際交流団体との連携に関する事業 (7)その他必要と認められる事業								
④ 目的 (何のために)	国際交流を通じて諸外国の人々との相互理解と友好を深め、国際親善及び国際協力に寄与する事を目的とする。								
⑤ 対象及び人数 (誰・何を対象に)	国際交流協会会員及び市民(平成22年度会員数 687口)								
⑥ 現在の実施方法	市民との協働 (詳細:)								
⑦ コスト	平成23年度予算		直接経費(A)の内訳						
	直接経費(A)	550千円	事務費 250千円 事業費 300千円						
	人件費(B) ※(C)+(E)	5,965千円	内	担当正職員:概算人件費(C) (H22決算平均給与8,260千円×従事職員数)	0千円	従事職員数(D)	0人		
			訳	臨時職員他(嘱託・アルバイト)人件費(E)	5,965千円	従事職員数(F)	2人		
総コスト (A)+(B)	6,515千円	財源内訳(収入)							
		国・府からの補助金等	0円	使用料・手数料	0円	一般財源(市債含む)	5,915千円	その他	600千円
⑧ 対象事業の抽出の視点 (選考優先順位)	◎ 見直しを検討している事業 ◎ 積極的に市民の意見を取り入れたい事業 ◎ 市単独事業								

⑨ 目標 (目指すところ) ※より具体的に記入	市民レベルでの国際交流活動に加え、地域の様々な主体による幅広い分野での国際交流活動をより一層活発化するとともに、在住外国人が暮らしやすい環境づくりを推進する。	
⑩ 事業の現状	国際交流協会設立当初から継続している外国人支援のための「日本語サロン」をはじめ、ホームステイの受け入れや姉妹都市交流など、ボランティアによる幅広い活動を行っており、国際交流事業のみならず、国際協力、多文化共生も含めた幅広い活動を市民主導で推進し、市民の国際化意識を啓発し、活動への参加を促すなど国際交流活動の拠点としての役割を果たしてきた。	
⑪ 目標と現状の差 (課題) ⑨-⑩	国際交流協会が実施する事業において、参加者の多くが会員である事業が多く見受けられる。国際交流協会会員数の増加が見込めない状況が続いている。	
⑫ 解決策と論点 (⑪の課題の解決策と問題点)	<p style="text-align: center;">市側の事前論点</p> <p>【解決策】</p> ①社会状況の変化に応じ、地域特性を考えた事業展開を図る。 ②組織運営の自立性、独自性を確保する。 <p>【論点】</p> ①これまでの友好親善・相互理解的なものから時代や社会の変化、地域社会のニーズにあったもの、地域特性を生かした事業へと変化していかなければならない。具体的には、これまでの国際交流、国際協力を中心とした事業から多文化共生の視点を加えた事業展開を重視していく必要がある。一方で、市民レベルの国際交流の機会を積極的に提供するにあたり、本市の外国人登録者数は、他市と比較してあまり高くないため、協会単独での取り組みではなく、関係機関との連携、協働を検討する必要もある。 ②「会費」や「寄附」など一般からの支援の比率を増やすなど自主財源の比率を高める努力が必要である。また、必要に応じて、応分の参加費を設定する等、事業の収益性を高めることも必要である。一方で、最近の経済状況からは、会費や寄附の依頼による収入の大きな増加は見込めない。	<p style="text-align: center;">最終論点</p> <p>※ 事前概要説明会開催後に記入</p>

様式2号

事業名 国際交流事業

細事業名 国際交流協会支援事業

<河内長野市国際交流協会とは>

国際交流を通じて諸外国の人々との相互理解と友好を深め、国際親善及び国際協力に寄与する事を目的として、平成4年2月に設立されました。

「日本語サロン」

(開催曜日/場所)

- ・ 火曜 10:00～11:30 市民交流センター (キックス)
- ・ 木曜 18:00～20:00 ノバティ南館 多目的ホール
- ・ 日曜 14:00～16:00 千代田公民館

日本語サロンは、地域在住で日本語が不自由な外国人や帰国者の方々のために開設されました。

現在までに、59ヶ国911人の外国人が参加し、日本語の勉強だけでなく、情報交換や相談の場になっています。年1回「日本語サロンオープンデー」を開催し、学習者が日頃の成果を日本語で発表し、地域住民との交流も行っています。

また、日曜クラスでは市の識字教室の機能も担っています。



「在住外国人のための防災訓練」

言葉の壁によって災害弱者にならないよう、日頃からの備えやいざという時に役立つ知識を学んでいます。

また、災害が起こった時に孤立しないよう、顔と顔とがわかるネットワーク作りもめざしています。

(実施内容)

- ・ 応急処置
- ・ 非常食体験
- ・ AED の使用方法
- ・ 救急車の呼び方
- ・ 心肺蘇生方法 など

今後は、避難場所の確認、地震への備え、火事の際の消火活動などを学ぶ予定です。



「くらしのべんりちょう/通訳・翻訳業務」

在住外国人が日本で生活していく上で必要な情報や、さまざま手続きの方法などを、英語・中国語・韓国語・やさしい日本語で作成しています。

市ホームページ、当協会ホームページからも閲覧することができます。

また、市民窓口課での外国人登録の際にも配布しています。

その他に、海外からの公式書簡・文書の翻訳、表敬訪問時の通訳も担当しています。



「KIFA フェスタ」

世界のさまざまな国の文化や人との交流を目的に音楽、ダンスのパフォーマンス等の実演や食の提供、各国のブースの設置、文化や歴史が学べる民芸品等の展示を地域在住外国人とともにを行っています。また、国際交流協会の活動紹介のブースも設けボランティアスタッフの募集を行ったり、さまざまな国への支援バザーもしています。毎年約150名の来場者があります。



「姉妹都市カーメルとの子ども絵画交換」

子ども絵画を通して異文化交流を図り、姉妹都市との友好関係の発展へつながること目的に、市内幼稚園・小、中学校を中心に毎年絵画を募集しており、昨年度は8小学校116枚をカーメル市に送りました。送られた絵画はカーメル市内にある「世界一小さな子どものための美術館」（ギネス登録）やカーメル国際アートフェスティバルにて展示しています。カーメルから送られた絵画（昨年度は53点）は、キックス・市役所・ラブリーホールで展示しています。またMOAへの貸出しも行っています。



「国際理解授業への講師派遣」

市内小中学校の総合学習の時間に行われている「国際理解授業」へ外国人講師の派遣を行っています。平成22年度は、6校22名の講師を派遣しました。「教育立市」における「教育のまち河内長野」にかかる取り組みとして、学校と連携し国際理解等特色のある学習の推進を支援しています。また、日本語指導が必要な外国人子女及び帰国子女に対する指導充実を目的に日本語ボランティア指導員（中国の方3名）を市内小学校へ（約1ヶ月間）派遣しました。

